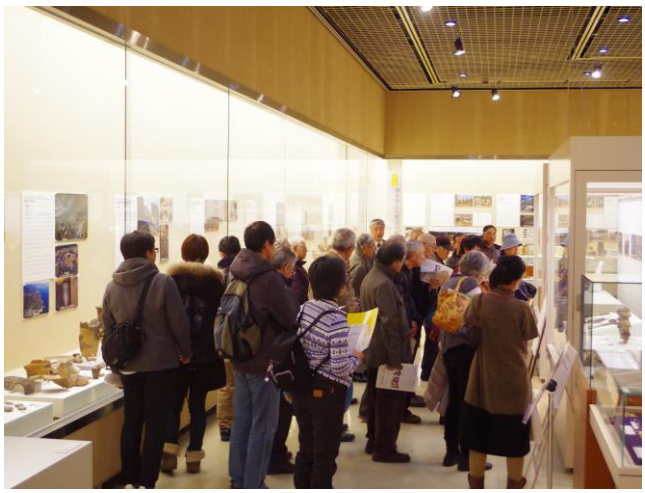
海の学び ミュージアムサポート Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

岩手県立博物館
「海に生きた歴史～復興発掘調査が語る一万年の海との共生」

開催期間：平成２８年１月１４日（木）～平成２８年３月６日（日）



【企画展の内容・目的】

■東日本大震災津波復興発掘調査の成果を展示することによって、海の恩恵を享受し、海と共に生きてきた岩手県沿岸地域の一万年にわたる人類史を示した内容ある。そして、将来も海と関わって生きて行く岩手県沿岸地域の復興の指針と礎を示すことを目的とした。

■講座では先史時代、歴史時代それぞれにおける海との関わり、講演では復興発掘調査を通しての現在生きる人々の海との関わりを示した。　展示解説会では、実物の展示資料を通して質問への応答、会話を交えた解説をおこない海の学び、気付き効果を深めた。

■今回の展示、関連事業、移動展示を含む企画は、単なる「埋蔵文化財」の紹介展示や「文化財レスキュー」の成果紹介などの人類史一辺倒ではなく、大きな「ねらいは「海と人」との共生の歴史を再認識してもらう機会とすることである。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

１．企画展示の内容

■開催期間：平成２８年１月１４日（木）～平成２８年３月６日（月）

■開催場所：岩手県立博物館　特別展示室

■入場者数：7,７５９人

岩手県立博物館　外観

企画展会場　入口

【第１章　海に生きた一万年の歴史】

主な展示資料

・土器・陶磁器でみる海に生きた一万年の歴史

・海に生きた一万年の歴史年表

・海に生きた歴史関連遺跡～岩手県沿岸部海岸線総距離 710 km の中で～

【海の学び効果】

時代順に並べた土器・陶磁器の展示と展示遺跡の存続年代を示した大判の歴史年表、そして地図上に示した展示遺跡の位置、分布によって、先史時代から現代まで、岩手県沿岸の海岸線 710km の中で、沿岸部の各地域で人々が海と共存し、地域の豊かな営みが途切れることなく連綿と一万年も続いていることを示した。

これによって、この地域の一万年の歴史は、海から恩恵を受けてきた結果であることを実感することができ、沿岸部の海との位置関係によって地域毎に特色ある三陸沿岸ならではの状況を把握してもらうことができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【第２章　海とともに生きた生活ー縄文時代～弥生時代】

主な展示資料

・斜面地に暮らすも海産物を得る　宮古市高根遺跡（縄文時代中期）

・山田湾まで徒歩１分の集落　山田町浜川目沢田Ⅰ遺跡（縄文時代中期・後期・晩期）

・トピック　貝塚　（山田町沢田Ⅲ遺跡出土　貝・動物骨・魚骨他）

【海の学び効果】

海と共存してきた岩手県沿岸部の貝塚・集落の先史時代の生活の様子について、豊富な漁撈具や動物遺存体、合わせて生活道具である土器等の出土遺物を時期毎・遺跡毎に展示した。

これによって、先史時代の岩手県沿岸地域の暮らしは地域によって異なり、また季節によって変動する親潮・黒潮が織り成す豊かな漁場の恩恵を享受してきた原初的な海の暮らしがあったことを実感してもらうことができた。

【第３章　海を介した歴史の展開ー古代～近代】

主な展示資料

・塩・鉄を作った海の集落　宮古市赤前Ⅲ遺跡（平安時代前半）

・太平洋と日本海の陶器の結節点　野田村伏津館跡（中世）

・トピック　戦争　（山田湾空襲関連資料）

【海の学び効果】

古墳時代から近代まで、海との関係を基軸に時期毎、遺跡毎に展示した。

歴史時代の岩手県沿岸地域は、海を介して他地域との関係が盛んであり、世界を結ぶ交通路である海のシルクロードの終着点として位置付けがあったことを示した。

また、自然からの海の脅威以外にも、人の手による海からの脅威「戦争」も岩手県沿岸部に傷を与えたことを示した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【第４章　東日本大震災津波と埋蔵文化財】

主な展示資料

・被災した遺物、埋蔵文化財関係者の犠牲（陸前高田市立博物館資料　個人蔵資料）

・埋蔵文化財関係者の犠牲（パネル　関連資料）

【海の学び効果】

被災実物資料を展示することによって。恵みをもたらす海が時には津波として人間社会に襲い、甚大な被害を及ぼすことを学ぶ場とした。

【第５章　復興発掘調査に携わった人々】

主な展示資料

・支援派遣職員の皆様からのメッセージ（パネル）

【海の学び効果】

全国からの発掘支援派遣職員自身に記してもらったメッセージパネルを展示した。他地域からみた岩手県沿岸の北リアスと南リアスで大きく異なる海の魅力について、外からの視点による気付きや、海への新たな向き合い方を発見する場とした。

【来館者の声】

◯展示で「海に生きた歴史」を学んだ。現地も訪れてみたい。

◯海産物をもたらす恵みと、津波など脅威をもたらす双方の面を知り、伝えていくことの大切さを知った。

◯鉄、塩、琥珀など三陸の特産物が印象にのこった。特に「製鉄」は海一辺倒の三陸のイメージを一新させている。

◯復興発掘調査に携わった全国からの支援派遣職員のご努力に感謝します。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

２．関連事業の内容

■展示解説会

【開催日時】①平成２８年1月２３日（土）15：００ ～ １５：３０
②平成２８年2月１３日（土）15：００ ～ １５：３０
③平成２８年2月１３日（土）15：００ ～ １５：３０
【開催場所】岩手県立博物館　特別展示室
【参加者数】①２４人　②７３人　③７５人
【実施内容・目的】

●展示の企画、実施を担当した学芸員が実際の展示を前に解説をおこなった。一方的な解説にならないように、質問への応答、会話を交えた解説をこころがけた。

●展示品の個別の解説にとどまらず、各時代、地域毎の海との関わりを示した。解説会終了後も、多くの参加者の方からの質問、海への想い、復興への展望が寄せられた。

開催場所の様子

第３回解説会の様子

展示担当学芸員による展示解説会を３回実施した。同時開催の特別展「発掘された日本列島 2015」と同日に、連続する時間帯で実施している。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

第２回、第３回は参加者が多く、参加者とのコミュニケーションを密にするため、２班に分かれていただいての解説会をおこなった。

展示室内にスクリーンを設置して、画像を映写し、展示品を補う形で、復興発掘調査の状況、津波被害を示し、海の学びを深めた。

展示のみに限定せず、担当学芸員が実際に携わった復興発掘調査、文化財レスキューについても、想いを伝えた。

展示開催直前に出土した「阿弥陀三尊鏡像」についての解説シートを作成し、速報の形で展示解説をおこなった。北辺の地に海路により伝播した古代の仏教文化の一端を伝えることができた。

沿岸部に住む被災者の方、作業員として復興発掘調査に携わった方の参加もあり、海との今後の関わりについてもお話が寄せられた。

【来館者の声】

◯平安時代に中央と共通する仏教文化がもたらされていることに驚いた。海は文化が伝わる道筋だということが理解できた。

◯縄文土器の立派さは、海の恵みによる生活の安定に裏づけられていると思う。

◯内陸に住む者にとって、「津波記念碑」は珍しいものだ。拓本でも臨場感が伝わる。津波の恐ろしさを垣間見た感じがする。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■県博日曜講座・講座記念講演会

【開催日時】①平成２８年1月２４日（日）１３：３０～ １５：００
②平成２８年2月１４日（日）１３：３０～ １５：００
③平成２８年2月２８日（日）１３：３０～ １５：００

【開催場所】岩手県立博物館　講堂

【参加者数】①５９人　②８９人　③７１人

【実施内容・目的】

●展示担当学芸員による講座を２回開催した。担当学芸員のそれぞれの研究分野である先史時代、歴史時代の「海に生きた歴史」について復興発掘調査を基軸に説明をおこなった。

●文化庁文化財調査官の水ノ江和同氏の記念講演会をおこなった。全国の発掘調査状況に精通した調査官の視点によって、日本列島の中の岩手県三陸沿岸部の海と関わりの深い人類史を浮き彫りにした。

開催場所の様子

水ノ江調査官の記念講演会の様子

第１回は当館学芸員による県博日曜講座「海に生きた歴史①ー縄文時代～弥生時代編ー」をおこなった。担当学芸員は縄文集落研究・貝塚研究を行っており、内陸部と沿岸部の比較及び貝塚を総体的観点から、海に生きた縄文～弥生時代の暮らしを示した。

海に生きた歴史は縄文時代に始まり、それから１万年もの長い歴史がある。海と人間との共存はどのようになしえたのか考える機会とした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

第２回は当館学芸員による県博日曜講座「「海に生きた歴史②ー古代～近代編ー」をおこなった。担当学芸員の研究テーマである「平泉」と三陸沿岸の関わりを講座の中心とした。

沿岸部の遺跡の分布から、平泉時代の海の道を呈示し、海を介した地域の交流が北方世界に広がっていることを示した。

海は地域と地域を結ぶ交通路であることを学ぶ機会とした。

第３回は文化庁文化財調査官の水ノ江和同氏の記念講演会「東日本大震災と埋蔵文化財-「発掘された日本列島 2015」展を中心に-」を開催した。

復興発掘調査と特別展「発掘された日本列島 2015」を推進してこられた文化庁調査官ならではの展望や、文化財がもたらす復興への影響力をお話いただいた。

そして、全国的な視点からの岩手県沿岸部の海の暮らしの特色を解説いただいた。

【来館者の声】

◯わかりやすくて、気分がタイムスリップしました。海の縄文人に感動。

◯平泉と沿岸部の関係に興味があります。沿岸部の調査を深めて下さい。

◯沿岸部の遺跡発掘調査は、これからも海に生きて行く地域のものにとっては、かけがえのない財産になります。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■連携事業「海に生きた歴史」移動展

【開催日時】①平成２８年１月１６日（土）・１７日（日）
②平成２８年１月３０日（土）・３１日（日）
③平成２８年２月　６日（土）・　７日（日）
④平成２８年２月２０日（土）・２１日（日）

【開催場所】①大槌町中央公民館　②野田村生涯学習センター
③宮古市立図書館　　④陸前高田市コミュニティホール

【参加者数】①６１人　②７６人　③９１人　④２２２人

【実施内容・目的】

●岩手県沿岸部４市町村において、「海に生きた歴史」の移動展示と本展示に係る講演会を開催した。各会場では、地元教育委員会、研究団体と連携した展示、講演をおこなった。

●移動展の開催によって、本展示への来館が啓発された。また、沿岸被災地での開催であり、移動展示、案内会のみ参加でも、海への学び・地域の歴史について気づきが得られた。

開催場所（大槌町）の様子

復興工事中の大槌市街の様子

①「海に生きた歴史　大槌町」は大槌町教育委員会主催の大槌町文化財公開講座及び出土品展と連携した開催であった。本展示でも取り上げている縄文時代の赤浜Ⅱ遺跡、近世の町方遺跡を軸に大槌地域と海の関係の深さを示した。

②「海に生きた歴史　野田村」は野田村教育委員会主催の「野田村考古学フォーラムⅢ」と連携した開催であった。琥珀を介した海外との関係も想定される古代の蒲沢遺跡を基軸に野田地域と海を介した他地域との交流を示した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

③「海に生きた歴史　宮古市」は宮古市教育委員会主催の「宮古市遺跡調査報告会～海に生きた歴史～」と連携した開催であった。当館の展示、講演の他に、名古屋市より宮古市へ支援派遣の酒井雅史氏による展示説明も行なわれ、他地域の視点からみた三陸沿岸の海との深い関わりも示された。

④「海に生きた歴史　陸前高田市」は陸前高田市歴史研究会及び「科研費　気仙地域の歴史・考古・民俗学的総合研究」主催の市民向け報告会「歴史・考古・民俗学から気仙地域の魅力を語るⅡ」と連携した開催であった。海との関わりを直接示す気仙地域で発達した縄文時代の貝塚文化を中心とした「海に生きた歴史」を示した。

４ヶ所の開催地ともに東日本大震災津波の大きな被害を受けた地域である。復興発掘調査によって明らかになった一万年にわたる「海に生きた歴史」を示すことによって、今後とも海とともに生きていく地域の「礎」を示すことができた。

また、主催者側も被災地の方々を触れ合うことよって、新たな海への視点、海の学びを深めることができた。

【来館者の声】

◯遺跡と海の位置関係が写真、図で理解できた。海が大槌の生活を支えていることを学んだ

◯野田村の城館で、海を通じ茶の文化がもたらされていたことに非常に関心を持った。

◯今後、地元宮古の水産科学館と連携した「海の学び」に関する企画を期待する。

◯気仙地方の貝塚文化を学んだ。縄文人の漁具の工夫に関心した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

・本展示に「海の学びミュージアムサポート事業」を活用したことによって、復興発掘　調査で出土した考古資料の展示会という枠を超え、「海に生きた歴史」とういう方向性、テーマが明確になり、岩手県沿岸部に根ざした「海の学び」の内容の展示会とすることができた。

・資料運送費を助成していただいたことによって、開催館から距離的に離れた、沿岸各地の資料を広範な地域から多数借用、運搬することができた。そして、借用資料の充実により、沿岸部の復興発掘調査の成果を時期的、地域的に偏りない展示構成とすることができ、総合的な「海の学び」の場を呈示することができた。

・印刷物、掲示物の作成により、展示にかかわる「海の学び」の効果が高まった。特に展示解説書は大量部数の作成が可能となり、観覧者全員に無償配布することができた。これにより、「海の学び」がより深まった。

・沿岸部４ヶ所で実施した移動展示は、被災地のこれからも海とともに生きて行く方々との直接の触れ合いの場ともなった。来場のみではなく開催者側の「海の学び」も深まった。

３．主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
１．大槌町教育委員会	「大槌町文化財公開講座及び出土品展」と連携し「海に生きた歴史　大槌」を開催した
２．野田村教育委員	「野田村考古学フォーラムⅢ」と連携し「海に生きた歴史　野田」を開催した
３．宮古市教育委員会	「宮古市遺跡調査報告会～海に生きた歴史～」と連携し「海に生きた歴史　宮古」を開催した
４．陸前高田市歴史研究会	市民向け報告会「歴史・考古・民俗学から気仙地域の魅力を語るⅡ」と連携し「海に生きた歴史　陸前高田」を開催した
５．科研費　気仙地域の歴史・考古・民俗学的総合研究	市民向け報告会「歴史・考古・民俗学から気仙地域の魅力を語るⅡ」と連携「海に生きた歴史　陸前高田」を開催した

４．主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日	
１．岩手日報	沿岸部一万年の営み	28/１/13
２．岩手日報	津波の歴史継承を 復興関連の発掘	28/１/19
３．岩手日報	遺物は語る　野田の琥珀と遺跡	28/１/２２
４．岩手日報	遺物は語る　海の「平泉」明らか	28/１/２３
５．読売新聞岩手版	土曜博物館　最北の鏡像	28/１/２３
６．岩手日報	出土八稜鏡に注目集まる	28/１/２４
７．IBC 岩手放送　テレビ	じゃじゃじゃ TV　中継	28/２/ ６
８．東海新報	海との歴史を伝える	28/２/２１

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。